花　き

実　況

1　キク

奥越での９月咲きコギクは平年より早く８月下旬から９月上旬に咲き始め、９月中旬の彼岸期には出荷量が大幅に少なかった。９月 18～20 日は台風や降雨により需要が減少し、価格は全般的に安く 40～60 円で推移した。また出荷箱数も病害虫や薬害の増加等により例年より少なかった。

９月咲きコギクの草丈は、「山手白」が草丈 89cm、葉数 43 枚(昨年 91cm、59 枚)、「シューフレンド」が 86cm、53 枚(84cm、48 枚)であった。病害虫では、オオタバコガ、ハスモンヨトウの食害が多く中発生で、「花乙女」の頂部食害茎率が 38.5%であった。スプレーギクの被害茎率も高く(表 1)、アザミウマ類(写真 1)、ダニ類では中～多発生となり、産卵が盛んにおこなわれており、定期的な防除が必要である

表1　スプレーギク品種とオオタバコガ被害茎率

品種名	被害茎数／100本				
	反復1	反復2	反復3	反復4	平均
324系統	10	12	16	13	15.3
キャンベル	7	4	12	7	7.5

写真１　アザミウマ類の食害痕と成虫・卵

また、ＪＡキク部会の出荷箱は主力の 1～3 号箱のデザインや大きさが変更された。これらの箱はサイド面に奥越をイメージさせる「天空の城」や、「恐竜王国」のロゴが印刷されており、９月 12 日以降の出荷から新箱に切り替えられた(写真 2)。

写真２　更新された新箱

坂井では７月～８月の高温乾燥により生育が悪く、草丈がやや低い傾向が見られ、９月咲の開花はやや早かった。病害虫では白さび病、褐斑病が少発生であった。あわらの寒ギクは「田代」が草丈 32cm、葉数 22 枚、「雪まつり」が 28cm、18 枚、「寒月夜」が 53cm、葉数 24 枚であった(９月 21 日調査)。病害虫では、ハスモンヨトウとオオタバコガが多発生であった。

福井の春植え９月咲きギクの草丈は９月 16 日調査（昨年度は９月 11 日調査)では、二日市の「リボン」（赤コギク）の草丈 69cm(昨年 90cm)、「紅馬」(赤コギク)の 75cm(95cm)、山吹(黄コギク)90cm と、8～9 割出荷済みであった。東郷の「小朝」(白コギク)は収穫終了、「えみ」(赤コギク)が 88cm で出荷はほぼ終了した。病害虫ではダニ、アザミウマ類が少～中発生で、黒さび病が少～中発生であった。

丹生の春植え９月咲きコギクは、９月 15 日調査(昨年度９月 17 日調査)で「ゆかり」(白コギク)が出荷終了、「かれん」(赤コギク)が 85cm で収穫盛期、「リボン」(赤コギク)が 90cm で収穫後半、「すいこ」(白コギク)が 103cm(110cm)で収穫終了(出荷始め)であった。病害虫では黒斑・褐斑病、白さび病が少～中発生であった。

南越の９月咲きコギクは、「かがやき」が収穫終了、「おちゃめ」が草丈 117cm で２割程度収穫、「わかさ」が 113cm、６割程度収穫された。病害虫では下葉に白さび病が多発、ダニ類が中発生であった。

二州の９月咲きコギク(調査日：９月 21 日、昨年９月 16 日)は、「わかさ」が草丈 86.4cm(93.8cm、蕾径 10.2mm)、「映虹」が収穫終了(草丈 76.6cm)、「おりがみ」が 80.8cm で収穫終了した。10 月咲きの「お吉」が 76.8cm(71.2cm)で未出蕾、「ふるさと」71.8cm、蕾径 6.2mm(72.0cm、蕾径 6.4mm)、「はくろ」70.0cm、蕾径 3.1mm(56.4cm、未出蕾)であった。

若狭の９月咲きコギクは、９月 21 日調査（昨年９月 16 日調査）で「わかさ」が草丈 86.4cm、収穫終了(93.8cm、蕾径 10.2mm)、「映虹」が収穫終了(76.6cm、開花期)、「おりがみ」が 80.8cm で収穫終了した。10 月咲きコギクは、「お吉」が 76.8cm、未出蕾(71.2cm、未出蕾)、「ふるさと」が 71.8cm、蕾径 6.2mm(72.0cm、蕾径 6.4mm)、「はくろ」が 70.0cm、蕾径 3,1mm(56.cm、未出蕾)であった。病害虫ではアザミウマ類少発生、一部品種にキクモンサビダニ、黒さび病が微発生であった。

２　ユリ

嶺北地区「リリブライトレッド」の二度切り栽培を目的とした球根冷蔵は、８月下旬から坂井、福井の生産農家で実施予定で、あわら市の生産農家は球根を堀上げ、冷蔵中である。シンテッポウユリは収穫がほぼ終了し、直売に一部出荷されている。春江のＬＡユリは、5～7cm に芽出しした球根の定植が９月 16 日頃から開始された。

３　スイセン

7月下旬から8月上旬に定植された促成スイセンは、草丈12～27cmであった(9月16日調査)。季咲スイセンの花芽分化状況はおおむね分化開始期で、昨年より10日以上遅い。

４　ストック

坂井では「チェリーアイアン」、「マリンアイアン」、「アプリコットアイアン」、「ホワイトアイアン」等であり、直播が８月８日から開始された。八重鑑別は９月上旬から行われ、本葉 5～6 対葉出あった。移植苗は７月 28 日頃に播種、定植が８月 10 日、本葉が 6～7 対葉であった。一部で高温による発芽不良が見られた。病害虫ではシンクイムシ類が少発生である。

南越ではカルテットシリーズが８月下旬～9 月 13 日に直播され(昨年は８月 20～9 月中旬)、双葉展開～本葉６枚である。

若狭では、直播種した「カルテット」シリーズが草丈 31.4 cm程度になっている。９月中旬定植では葉数４枚となり、シンクイムシ類が少発生している。

５ トルコギキョウ

あわら市のロベラ系、レイナ系、ネイル系で８月上旬定植の草丈が 20～25cm で、リゾクトニアによる立枯病がみられた。若狭では７月中下旬に定植された苗冷蔵「天てまり」が 70cm(昨年調査８月１日で 50cm)で収穫中である(9 月 15 日現在)。「ボャージュグリーン」75cm(55cm)、「バルカンマリン」76cm は収穫中で、直売を中心に販売されている。

６　その他

福井市の二日市の切り花用ハボタン(調査日：９月 16 日、昨年度９月 11 日)は、７月下旬定植「晴姿」で 30～38cm、東郷の「晴姿」51cm(50cm)、「初紅」50cm(55cm)であった。病害虫ではアオムシによる食害が少～中発生であった。坂井のアスター「あずみ系」は電照による開花異常とさび病が多発生した。

対　策

1　８、9 月咲きギク親株のハウス搬入と管理

1）親株のハウス内への植え付け適期は 11 月上旬までである。キクの根は地温が 5～6 ℃以下になると、新根の発生が悪くなるので、奥越地域や山間部では搬入を早めに行うことを励行する。

2）ハウス内に床幅 90cm 前後、高さ 20cm 程度の畝を準備する。土寄せ苗を７×10cm 間隔で植え付ける。苗（親株）は太くがっしりした花芽のついていないものを選んで植える。

3）植え付け床が乾いている場合は、1 日前に灌水し適湿にしておく。

4）植え付け後は月に 1～2 回、ジマンダイセンフロアブルやコロナフロアブルで予防散布を励行する。白さび病が発生した場合は、病葉を取り除いた後にチルト乳剤等の治療剤を散布するが、最近は各地域でサプロール乳剤の耐性菌がみられるため、ＥＢＩ剤の散布回数は最小限にとどめる。害虫では特にアザミウマ類、ダニ類の発生があるので、葉裏、生長点を中心に殺虫剤、殺ダニ剤の散布を行い、圃場持ち込みを防止する。

5）卵から初齢幼虫時は小さいため持ち込みがちであり、プリンスフロアブル等でチョウ目害虫を抑制することも重要である。二州地区や奥越の一部では、キクモンサビダニの加害痕である紋々病が本年度見られた。生長点付近に重点的に殺ダニ剤を散布し、親株圃に蔓延しないよう留意する。

6）植え付け後は保温等を行い、速やかに活着させる。その後、ハウスのサイド側のビニールを、奥越では 12 月、若狭地域では 1 月下旬までは開放する。

7）低温時の灌水はできるだけ控える。特に植え付けが遅れた場合に土壌水分が高い過湿状態では、活着不良になる場合がある。また、灌水する場合は晴天日の 10 時ごろがよく、灌水後は換気を十分に行う。

2　ストックの管理

1）昼間の気温が高いと軟弱徒長しやすい。さらに菌核病が発生するので換気に十分注意する。夜温が 8～10℃以下になれば、夜間はサイドビニールを閉めて保温する。気温と湿度の上昇を防ぐため、晴天時は朝のうちにサイドビニールを開放して十分に換気する。

2）ストックのホウ素欠乏症は、葉、茎、花の各部位に発現し、葉の表皮の白化、茎割れ、茎の褐色斑点、開花異常の症状として現れる。定植時にホウ砂を 1 kg/a 施用（ホウ素として 0.36kg/a）すると発生を防止できる。

3）出蕾を始めたら灌水、液肥施用は中止し、茎葉を硬くしめる。粘質土等乾きの遅い圃場では、さらに早めにこれらの対策を行う。

4）菌核病は、連作地で発蕾期から発生し、株元から褐変して立枯れ症状で枯死する。灌水は午前中に済ませて株元の乾燥を図り、ポリベリン水和剤やトップジンM水和剤を散布する。

5）収穫適期は 3～4 輪が開花した時（市場によって多少異なる）を目安とし、手で株を引き抜いて収穫する。抜いた株は株元の緑色の部分で切り戻し、花穂が曲がらないよう真っ直ぐに立てて水あげする。

6）害虫では特にコナガの発生があるので、登録のある薬剤を定期的にローテーション散布し徹底防除する。

3　トルコギキョウの定植作業

1）栽培期間が長いため、特に土づくりが重要である。優良堆肥を 2～3 t ／10a 施用し、30cm 以上の深さで耕起する。また多湿にならないように、暗渠等の排水対策を行う。

2）無加温ハウスでは、遅くとも 11 月中旬までに植え付けをする。植え付け日の 1 週間程度前からハ

ウスを密閉して、地温を十分上げてから植え付けする。

３）本葉４枚になると茎立ち始めるので、茎立ち前に定植する。

４）植え付けは、晴天日の午前中か、暖かい曇天の日に済ませる。

５）多湿条件下では、灰色かび病が発生しやすいので換気を十分に行い、灰色かび病等の防除にアフェットフロアブル等の薬剤による防除を励行する。

６）育苗箱と植え付け後に、液肥 500～1000 倍を根付け肥として施用する。

４　スイセンの管理

１）今年は降水量が多いため、圃場の灌排水をしっかり行い適湿にする。
季咲スイセンでは、9 月上中旬に土壌水分が安定しないと開花期が遅れる傾向にあるので、前年に葉先枯病の発生が少なく、用水が確保できる圃場では灌排水をこまめに行う。

２）促成栽培は温度と灌水管理を十分に行い、品質の良い花を生産する。遮光資材の取り外しは、気温 25℃以下になった時点を目安とし、曇天の時に行う。促成栽培の灌水は 9 月下旬まで土壌水分を見ながら継続し、それ以降は灌水を停止し、根腐れ防止のため溝さらえ等圃場排水を徹底する。

３）出芽時にゲッター水和剤 1000 倍液で灰色かび病等の防除をする。

４）球根養成圃場の準備
球根養成圃場では、ＰＫ化成をａ当たり 5kg、マグフミン等の石灰資材を 10kg 施す。

５）イノシシ等獣害対策の実施
イノシシはミミズを食べるため、球根を掘り起こす。 電気柵を張ったところでは、草刈や漏電防止の再確認も十分に行う。

５　福井ユリの定植作業

１）定植適期は各品種とも 11 月下旬～12 月上旬であるので、圃場の準備を進める。

２）ハウス周辺の排水対策を行い、定植 14 日前を目処に石灰類 10kg/a、ようりん４kg/a、堆肥 300kg/a を施用し、土壌酸度をｐH5.5～6.5 に調整する。

３）施肥は定植 7 日前に有機質肥料(N-P-K=6-5-5)30kg/a、草木加里 1kg/a を全量基肥とし、EC を 0.8mS/cm 程度とする。

４）畝は畝幅 120 ㎝（天幅 90 ㎝）で、栽植密度 12 ㎝×12 ㎝の 6 条植えを基本とする。分球している球根は 15 ㎝×20 ㎝に定植し、芽立ち後 2 本に整理する。球根の覆土は７㎝とする。

６　完熟堆肥の積み込み

施設栽培では、良品生産、連作障害回避のため、良質堆肥が必要である。

１）本圃面積 10a に対し、水田 30a 分の稲わらを積み込む。

２）稲わらにススキ（3cm 程度に細かく切断したもの）を半分位混合して積み込むと、長持ちする良質の堆肥ができる。市販のモミガラ堆肥も積み込むことで、完熟に近くなる。

３）積み込む場合、10a 分の稲わら（500～600kg）に、水１トン弱と窒素分を補うため石灰窒素か硫安等を 20kg 程度加え、積み込む。発熱後に、2～3 回の切り返しを行う。なお、リン酸分も加えるとリン酸の肥効が高まる。